

今年の五年生は「Let's GO(5)」を学年目標として友達と協力しながら、何事にも挑戦していくことを大切にしてきました。

七月の野外活動では、「自分のために、みんなのために、最後までやりとげよう」を目標に様々な活動を行いました。グループワーク(SAP)では、クラスみんなで作った、小さなボールをゴールまで運ぶ活動の中

津江 元暉
村田 奈美
武田 真吾



温かくかわって支え合うことで、一人一人が大きく成長しています。四月から、いよいよ高学年。これからも、お互いに認め合えるかわりを大切にしていきたいと思います。

で、仲間と言葉を掛け合ったり、励まし合ったりして、よりよい方法を考え、達成感を味わうことができました。

また、班ごとに「班長」「副班長」「レク」「食事」「美化」の役割を設け、役割ごとに集まって準備を進めていきました。どの児童も自分の役割を全うしようと助け合い、責任感をもって取り組んでいく姿が見られました。臨機応変に動かないといけないことを経験し、日を追うごとに自分たちで考えて動く姿が見られ、成長を感じました。

野外活動を通して、仲間意識、責任感、役割分担や協力することの大切さを実感することができました。

総合的な学習の時間では「古市とバレーボール」をテーマに取り組みました。まとめる際には、「〇〇さんは文章を書くことが得意だからお願いね。」「自分は絵が得意だからやるよ。」など、自分や友達の得意なこと、苦手なことを認め合い、分担して取り組む姿が見られました。その後、バレーボールのことを下学年にも伝えていきたいという思いをもち、学年

七十一色のハーモニー
六年担任 山手 夏子



を三つに分け、クラスの隔たりを無くして取り組んでいきました。下学年が楽しめる内容を考え、言い方や書き方などの伝え方を工夫し相手のことを意識して取組を進めることができました。

一年間を通して、仲間と深くかかわっていくことに喜びを感じたり、高学年として下学年を意識したりする姿が見られました。これからも仲間と協力し、何事にも挑戦していったと期待しています。

学校に行けば、みんなに会えます。外遊びが好きな子もいれば、好きではない子もいて、賑やかな子もいれば、物静かな子もいます。自分とは得意なこと苦手なこと違う、いろいろな個性をもった友達がいいます。だからこそ、互いに学び合うことができ、ときには友達との違いを受け入れられずに傷付け合ってしまうこともあります。

四月の徒歩遠足に向けて子どもたちは「心をつなぐバトン」を計画しました。感染症対策として一年生と手をつなぐ代わりに、六年生が作ったバトンを一緒に持って歩くことで、仲よくなるきっかけづくりや、一年生の交通安全にもなります。「握る部分は痛くないように毛糸を巻こう。」「緑色が好きって言っていたな。」「イニシャルのMを入れよう。」など、ペアの一年生を思い浮かべて、心を込めてバトンを作りました。当日は、一年生が目を輝かせてバトンに興味を示してくれて、心の距離も縮まっているようでした。

運動会の演技では、衣装の色を自分で選び、背中に自分が選んだ一文字をペイントしました。演技終盤では自分の色と文字をまとい、自分たちで考えた振り付けを全身で表現し、運動場に色とりどりの花が咲いたようでした。友達が踊る後ろで手拍子を送り、互いに盛り上げようとする姿も、輝いていました。

たんばぼ学級担任

大倉 隆弘

宮川 明子

山本 聖子

宮田 ももこ

「思いやり」という言葉の意味は「他人の気持ちになっ



学習発表会では、二か月間、全ての休憩時間に、楽器ごとに分かれて、練習に取り組みました。演奏がうまくそろわない時期もありましたが、互いに励まし合い、本番では最高のハーモニーで会場全体に感動を届けてくれました。

春からは、新しく出会う友達との中学校生活が始まります。今後も「他者を思いやる心」を大切にして、かけがえのない関係を築き、毎日を楽しみたい時間と満たしたいってほしいと願っています。

て考えること」です。たんには「学級の中では、特に友達とのかかわりの中に、その場面を見つけることができます。」

ある日、たんは「学級で泣いているAさんがいましたみんなで一緒に遊んでいたのですが、自分の思ったように物事が進まず、悲しくなっていましたようです。Bさんが「どうしたの?」と問いかけました。そして、泣きながら話すAさんの言葉に耳を傾け、「○○したかったんだね。じゃあそうしてみよう。」と伝えました。Aさんの涙は止まり、笑顔で頷きました。

また、ある時、Cさんが「ライラしていました。何か嫌なことがあったようです。すると、Cさんは教師のところに来て、「先生、あの顔の絵を見せて。」と言いました。以前教師が描いた、気持ちを顔の表情と数値で表した絵のことです。見せてあげると、Cさんは絵を指さして、「今、俺の気持ちはこれ。」と言いました。そこには、少し怒った顔と「四」という数字がありました。「少しライラしているの?」と尋ねると、頷きました。その後、友達が遊

れの教室に掲示してあり、子どもたちは常に意識して生活しています。そのおかげで、休憩時間にはクラスや男女にこだわらず、外で元氣よく遊ぶ姿が見られます。しかし、仲よくなり距離が近くなると、言葉遣いが少し乱れてきたり、意見が違ったりと、些細なことではけんかが起こるようになってきました。

そこで、道徳で「みんなちがって、みんないい」という題材で、互いの良さを見つけ、違いを認め合おうという学習をしました。その学習を通して、子どもたちはいろいろな気付きを得ていました。

○友だちのことをよく知って、よく話をする、というのいいところがたくさん見つかるということがわかりました。みんなちがっていてもいいし、同じところがあってもいいと思います。

○みんなのかいた絵、みんなの顔を見るとぜんぜんちがう。みんなちがうけど、ぜんぜんわるくない。それぞれがちがうからいい

と思いました。

また、生活科の学習で行った「おもちゃ祭り」では、おもちゃの遊び方や場の設定で意見が違ったときに、互いの思いを認め、折り合いをつけていく姿が随所で見られました。一年生を招待した際にも、自分たちが作ったおもちゃの遊び方を説明したり、困っている一年生に優しく接したりすることができました。

教室は、すばらしい個性が集まっている小さな社会です。みんなそれぞれ違う思いや考えをもっていて、違いを学んでいる場所です。

自分も友達も、世界に一人しかない大切な存在であるということを感じ、よりよい人間関係を築いていける子どもたちになってほしいと思います。



新たな挑戦

三年担任 上原 知也

児玉 万里菜

三年生になり、社会科や理科など新たな学習がたくさん加わりました。その中に総合的な学習の時間があります。子どもたちは、「総合科目でどんなことを学習するんだろう。」と、わくわくしながら興味をもって取り組み始めました。その中で「視覚障害のある方とわたし」をテーマに、学習を行いました。

まずは、視覚障害のある方々の生活を実感するためにアイマスクをして校内を歩く体験を行いました。ペアを作り、一人がアイマスを付ける側、もう一人がサポートする側に分かれて行いました。サポートする側は、相手がけがをしないように安全に誘導しないといけません。子どもたちは、どのようにサポートすれば相手を上手に誘導できるのかを事前に考え、話し合いました。「声に出して、道案内をすればいい。」「歩くときは、肩に手を置いてもらおう。」「など、さまざまな意見が出ました。実

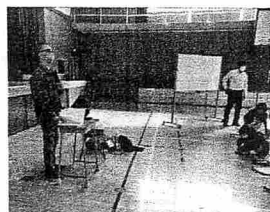
実際に体験する場面では、子どもたち同士で言葉をかけながら、アイマスクをつけた友達を上手にサポートする姿を見ることができました。

アイマスク体験を通して、子どもたちから、「生活の中で、どんなことに困るのかな。」「どんな仕事をしているのかな。」「どうやって料理をするのかな。」など、知りたいことがたくさん出てきました。実際に体験をしたからこそ、子どもたちも視覚障害のある方の具体的な生活場面を想像することができたのだと思います。

その後、自分が調べたいテーマごとに分かれて、グループで調べ学習を行いました。調べることが得意な子は率先して調べたり、絵を描くことが得意な子はイラストのアイディアを出したりしながら協力して活動を進めていきました。一人一人の良さを出し合いながら、学習を進めることができました。

これからも、友達とのかかわりを大切にし、自分のよさを伸ばしながら、いろいろなことに挑戦していったほしいです。

四つ葉のクローバー
四年担任 井手 啓太郎
前谷 涼子



四年生は、四つ葉のクローバーをイメージし、「やさしい子」「すなおな子」「協力できる子」「最後まであきらめない子」になるという四つの目標を立てました。困難に對しても、温かい気持ちで支え合い、乗り越えていける力をつけてほしいという願いを込めています。

四年生の中には、自分に自信がもてず、不安を感じ、やすい子がいます。そこで、友達と助け合うことができれば、様々な場面でグループ活動を積極的に取り入れていきました。

総合的な学習の時間で行ったケナフの作品作りの学習の際のときのことです。作業に不安を感じて、活動に参加しに

くいい子がいました。すると同じグループの友達が、「そこ、分かる？」「こうやったらいいよ。」「こ、持っていてあげるから続きをやってみて。」「と寄り添う場面がありました。励まし合ったり、助け合ったりして課題を解決することができたときの達成感や協力することの楽しさを味わうことができていました。

「なかよし週間」では、友達との温かいかわりについて紹介しました。

○何かがいやでもややもやもやしていたけど、友達といると楽しくて、泣いて学校に行くことはなくなり、楽しく学校生活を過ごせるようになりました。」「大丈夫？」「や」「一緒に遊ぼう。」「と言ってくれてうれしかったです。

○友達がドッジボールをしているところへぼくが行った時、みんな真げんに集中していたから今は話しかけない方がいいかなと思っていたら、試合を中だんしてかれて、「一緒にやろう。」「と言われて、とても心が温かくなりました。